



第5回日本語教育セミナー in 西安

第15回 陝西省大学生日本語弁論大会・関連事業

●日 時：2008年10月18日（土）

- ① 講演：水 谷 修 [名古屋外国語大学学長]（午前10時より）
- ② 日本語教育セミナー in 西安（午後2時より）

●会 場：西安外国語大学

●共 催：社団法人 全国日本学士会
陝西教育国際交流協会

●後 援：国際交流基金会（日本） 中国教育国際交流協会
京 都 府 陝 西 省 教 育 庁
京 都 市 京 都 新 聞 社
京 都 外 国 語 大 学 財 団 法 人 経 済 広 報 セ ン タ ー
名 古 屋 外 国 語 大 学 財 団 法 人 日 本 漢 字 能 力 検 定 協 会

●協 賛：株式会社 内 田 洋 行

これからの日本語教育と中国への期待

名古屋外国語大学 学長
水谷 修

中国と日本を結びつける日本語教育の世界もいよいよ戦略的互惠関係の段階に入る。この30年の中国における日本語教育は日本で形成されてきた教育方法と内容の大きな影響を受けてきた。日本語そのものに関する大きな部分は変わることはないであろうが学習目的により効率化を図る教育にかかる部分は大きな変換を求められ始めている。何のために日本語を学ぶのかいかなる日本語能力の習得を優先させるべきかは学習する立場におかれた人たちが最も良く知っている。中国の日本語教育者、学習者への期待は大きい。

語を通して何が学べるか

名古屋外国語大学 外国語学部日本語学科長・教授
中道 真木男

日本語学習の中で、いちばん大きな労力を要するのは語彙の習得です。文法については、ある程度限られた数の型とその応用を身につければよいのに対して、語の数は無限であり、必要な語も学習者一人ひとりで違ってきます。また、一つひとつの語について学習しなければならないことがらは、辞書的な意味や発音・表記、文法的な性質などにとどまらず、どんな語感を持ち、どんな場面で使うのがふさわしいか、どんな文化意識を反映するか、使用場面にとってどんな関わりがあり、その場面でどんな働きをするかなど、非常に多くの側面にわたります。教室で語彙指導を行うときには、その語について、そのとき何を学ぶのかを教師がはっきりと認識していることが望まれます。このセミナーでは、いくつかの語をとりあげ、それらについて学習すべきことがらを網羅的に書き出していくことによって、語彙教育の適切な方法を考えます。

どうして違うの？

京都外国語大学 日本語学科教授
森本 順子

外国語を学ぶと、自分の言語とは異なる考え方、発想、仕組みなどにぶつかります。それは自分の常識がくつがえされる楽しい瞬間でもありますが、なかなかやっかいなこともあります。今回は、その中で副詞を取り上げてみます。いい授業を受けたとき、なにか言いたい。「とても面白かったです。」といえればいいのですが、「ごく面白かったです。」というと、失礼だと思われそうです。それはどうしてなのでしょう。日本語と中国語の考え方の違いを議論したり、実際に分析をしたりして、知識だけでなく、表現の分析の方法について考えていきます。

日本語がじょうずになりたい ―教室活動の秘訣―

京都外国語大学 日本語学科教授
中川 良雄

「日本語がじょうずになりたい」、日本語の学習者ならだれしも、そんな望みを持っていることでしょう。では「じょうず」とはどんなことでしょうか。文法についてよく知っているとか、いわゆる「おしゃべり」というだけでは、決して「じょうず」であるとは言えないでしょう。

「じょうず」と言われるためには、まず、①「正確」かつ「流暢」であること、次に②日本語で何かが「できる」こと、そして③日本語コミュニケーションの方法を身につけることが必要であると考えます。

そこで本セミナーでは、日本語を使って何かを「やってみる」ための教室活動や、コミュニケーション能力を身に付けるための教材について考えます。

従来とってきた教授法とは、相当な発想の転換が求められます。

MEMO
